告白

森野カエル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
告白

【Ｎコード】
Ｎ５０８５Ｚ

【作者名】
森野カエル

【あらすじ】
高鳴る胸。上がる体温。私は体育館裏に先生を呼び出した。（自サイトより）

ドキドキと高鳴る胸。
上がる体温。
緊張で気分は高揚していた。
私は体育館裏に先生を呼び出した。
先生は何故呼び出されたのか分かっていたかもしれない。
授業が終わった後、隠すようにして渡した手紙。
始めは不思議そうにしていたが、手紙の中を見て驚いた顔をしていた。
手紙の内容はこうだ。

『二人きりでしたい、大切な話があります。
今日の放課後、体育館裏で待っています』

先生が手紙を読んだのを確認して、私は教室を出ていった。
ホームルーム終了後、私はすぐに体育館裏に向かった。
体育館裏は木が生い茂り、じめじめとしている。
薄暗く、近付く生徒はあまりいない。
誰にも聞かれたくない話をするのにうってつけだ。
先生を呼び出す事について、私はかなり悩み、昨日も布団の中で眠らずに考えた。
この事は私の胸の中にしまって、伝えずにいようかとも考えた。
しかし、曖昧なままにしておく事に私は耐えきれなかった。
後ろから草を踏む足音が聞こえる。
私はゆっくりと振り返った。
先生の姿が木々の間から見える。
少し俯いている先生の表情は分からなかった。

「先生」

出た声は少しかすれていた。
つばを飲み込み、ノドを潤す。
思っていた以上に、私は緊張しているようだ。

「話とは何だ？」

いつもなら近くに来て話す先生が、少し離れた所で立ち止まった。
この距離が先生の緊張を表しているのかもしれない。

「もう気付いていますよね？」

声が小さくならないように、私は握られたこぶしにぎゅっと力を入れた。

「昨日、先生が体操服を盗んでいる所を見ました」

ｅｎｄ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5085z/

告白

2011年12月17日05時53分発行